

天空ショーは終わった。

2024-3-12

野口幹夫

冬期の間の海岸ラジオ体操は冷たさがこたえるが、楽しみは天体ショーだ。そして3月寒さが消える時天体ショーも終わった。そのいくつかを紹介したい。

1月から3月初めまでに天体ショーが見えるのは、特別な原因があるわけない。ラジオ体操の6時半ごろにはまだ日の出に遠い時間で、まだ夜空の名残りが残っているからなのだ。

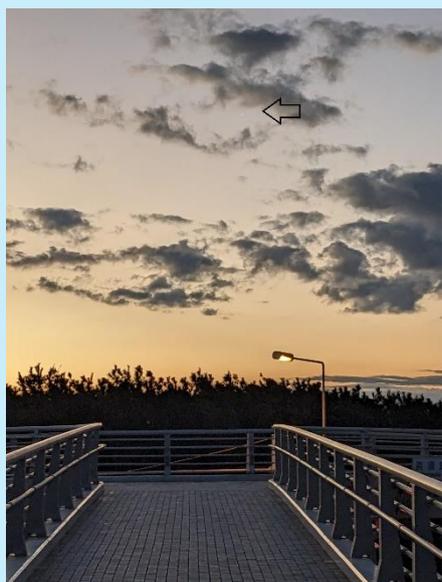


<写真1 満月と富士と私>

写真1はラジオ体操会場の汐見台海岸に歩いてきた私を満月と朝焼け前の富士の背景に撮ってくれた友人の作品だ。日の出が一番遅いのは冬至ではなく、元旦頃だ。元旦の朝、7時ちょっと前の日の出を待ちうける人たちで人々で埋まる、ラジオ体操の会場も占拠されてしまうのだ。



<写真2 今年の初日の出 江の島越しに出る>

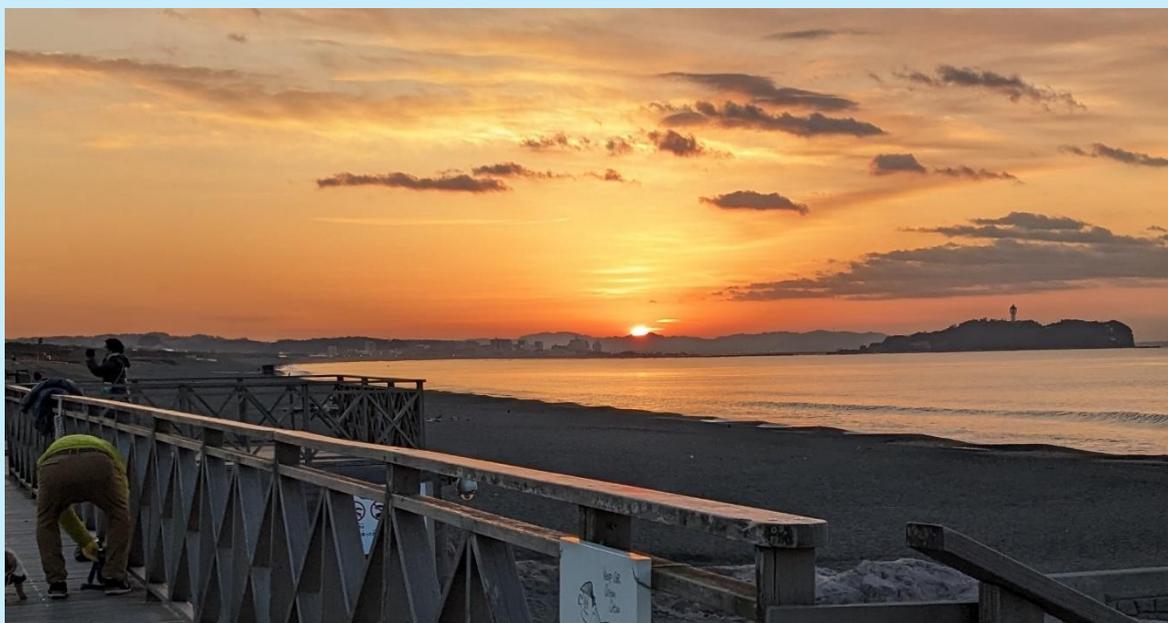


<写真3 導きの大金星>

夜明け前の空の天体ショーの主役は明けの明星「金星」だ。ほとんどの恒星は見えなくなるしののめの空に晴れてさえいれば南の空にただ一つの大きな「キンボシ」だけが輝いて見える。毎日少しずつ南々東の空に移動する。そしてもう明日からは見えなくなるだろうと予想するその日海へ向かう浜須賀陸橋のブリッジの真向かいに姿を見せるのだ。私はかつてにそれを導きの星と名付けて毎年その日が晴れるのを願って待ち受ける。今年もそれは実現し、スマホで撮影した。写真3はその導きの星金星だ。写真上に矢印がしてあるところにそれが見えるのだ。スマホの写真をここに転写しても見ていただけないだろうが、この矢印の先端に実景でははっきり見えるので想像してほしい・

話を日の出の太陽に戻す。2月10日まではラジオ体操が終わっても太陽は顔を見せない。そしてついに2月11日第2体操が始まるころにまばゆい顔をのぞかせた。

<写真4 2月11日の日の出がラジオ体操の会場にかかった>



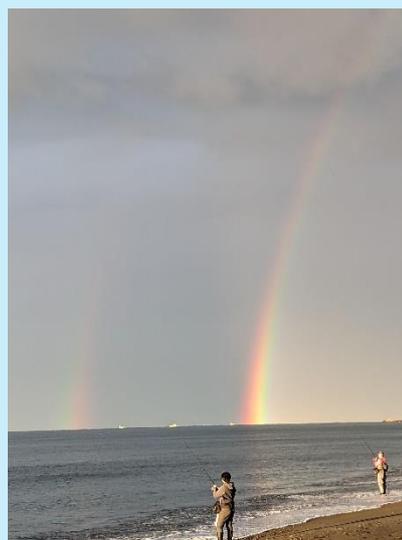
太陽も恒星の一つであるが、星々と比べてみると、地球から見る太陽星の大きさに圧倒される。やはり古代から人類は太陽に神を感じたのだ。これなくしては我々は存在しないのだ。

天体ショーは太陽や月星ばかりではない。しのめの閃光空や太陽の光をまともに受ける西の空には水蒸気の条件がそろえば、2本の虹だって立つ。富士も頂点だけが輝く朝の一瞬だ。

<写真6 物凄いしのめの閃光>



<写真5 二本柱の虹>



<写真7 頂点だけ輝く富士山>

